

3年1組

思いを寄せて

～ツムピーをきこうとする中で わたしになっていく～



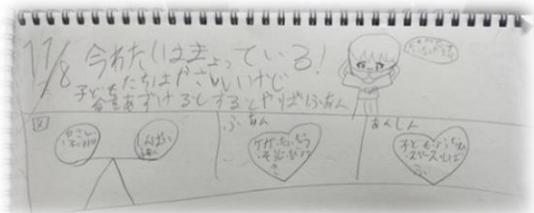
優しい子たちだった

3年生を終えると、クラス替えになります。このクラスの仲間ですら大事にしてきたツムピーとこはく。クラスが変わり、ツムピーとこはくを手放した後も、2羽が一緒にしあわせに生きていける場所を探しています。いくつか候補がある中で「須坂マリアこども園」に可能性を感じ、実際にどんな場所なのか、どんな人がいるのか、確認しに行くことにしました。

11月8日(水)に、須坂マリアこども園を訪問させていただきました。「ツムピーとこはくが生活するのに適した環境なのか」「私たちが手放した後どんな子たちがお世話をしてくれるのか」を確認することが今回の目的でした。子どもたちは芝生やクローバーの生えた校庭、日差しや雪を防げそうな屋根や木を見て、「これなら大丈夫そう!」「ツムピーとこはくがたくさん散歩できるね」と言いながら場所を確認していました。近くに止まっている送迎バスを見て、Aさんが「バスの煙とか音でツムピーたちびっくりしてストレス溜まっちゃうかも」と言うと、園長先生が実際にエンジンをかけて確認させてくれました。「思ったより全然音しない」「煙も出てないから、これなら大丈夫か」と、様々な状況を考えながら確認する姿がありました。他にも、「水道あるね」「ホースもあったよ」「虫もいるからツムピーたち食べられる」と、細かいところまでよく観察していました。

園の子どもたちとの交流は、一緒にボール当てゲームをして遊んだり、お話ししたりしました。緊張していたのか、はじめはなかなか話しかけに行くことができずに園の子どもたちとの距離を感じましたが、一緒に遊ぶうちに笑顔も増え、自分から質問したりアヒルのことを教えたりすることができました。「すごく優しい子たちだった」「アヒル好き?って聞いたら、好きって言ってきて嬉しかった」「僕たちに笑ってくれたから、ツムピーたちにも笑ってくれそうだなって思った」「元気な子が多かったから、ツムピーとこはくと気が合いそう」「虫が好きな子いっぱいいたから僕たちのかわりに虫を食べさせてくれそう」と、お話ししたことを嬉しそうに教えてくれました。一方で、「動物こわいな～って言うてる子もいたよ」「幼稚園生だから、追いかけてツムピーたちの足踏んじゃわないかな」と心配する声もありました。そこで話し合った結果、次回は、ツムピーとこはくを実際に見せて触れ合わせてあげようということになりました。「見たら絶対好きになると思う」「ただ見せるんじゃなくて、写真とかで紹介してからツムたちを登場させる?」「早くまた行きたい」と、次の訪問を楽しみにしている姿がたくさんありました。ツムピーとこはくのことをしっかりと紹介できるように準備していきたいと思います。

園訪問の後の振り返りを読んでいると、「須坂マリアこども園にツムピーとこはくを託したいな」という思いの子がたくさんいる中で、迷いを感じている子もいました。Hさんは、「今私は迷っている。子どもたちはやさしいけど、命を預けるとするとやっぱり不安。不安はケガ、体調、そうじ、病気。安心は、子ども、幼稚園、スペース、芝生」と書いていました。また、Nさんは、「迷い中。だって、預けたら、今まで頑張ってきたあかしが消えちゃうみたいだから」と書いていました。今まで何度もツムピーとこはくのしあわせや命について悩み、考え、話し合ってきたこと、小屋の掃除をしなきゃと思いつつもできない自分と向き合ってきたこと、小さい時からずっと成長を見守ってきたこと、その外にも、その子とツムピーとこはくとの関りの中で、大切にしてきたことがたくさんあると思います。まだ少し先のお別れを、よりリアルに考えれば考えるほど、「本当にこれでいいのかな」と悩んでしまうのかもしれませんが。それは私も同じです。何が正しいのかは最後まで分からないのかもしれませんが。しかし、子どもたちとみんなでお納めできる道を探していきたいです。



意味あるもん！

11月27日(月)の3回目のマリアこども園との交流に向けて、準備を進めています。前回の交流で「飼いたくない」という園児の言葉から、さらにツムピーとこはくの「良さ」を伝えていきたいと語った子どもたち。今回は、「ツムピーこはく祭り」を開くことになりました。可愛さアピールグループは、ツムピーの小さい頃から現在までのたくさんの写真を使って紙芝居を作成し、ツムピー目線の楽しい物語を作って何度も発表の練習をしています。自己紹介グループは、幼稚園生が楽しめるような景品付きのクイズを作ってアヒルについて楽しく知ってもらおう工夫を考えています。他にも、園児にプレゼントするアヒルグッズのグループや、ふれあい体験グループなど、7つの各グループでどうすれば園児に伝わるのか考えながら準備をしています。



これまでの話し合いでは、「預け先に不安があるようだったら責任を持って自分たちで食べてもいいんじゃない?」「命を預けるとすると不安」と言っていたHさん。園児たちの言葉を聞き、Hさんはさらにその不安を大きくしたのではないかと感じていました。しかし、Hさんが綴ったのは、

(～前略～) ツムこはを飼いたくないという人たちがいたけど、たぶん幼稚園生は生き物を飼う意味が分からないんだと思う。だから1日育ててみて、ちょっとずつ泊まらせてみて、意味を聞いてみたらいいんじゃない。
「飼って意味ある?」「意味あるもん!」

という言葉でした。大勢の園児たちの「飼いたくない」という反応をきっかけに、Hさん自身がツムピーやこはくを「飼うことの意味」を考え直し始めたのではないかなと感じました。うまく言葉にはできないけれど、自分にとっては間違いなく大きな「意味」を感じていたからこそ、「意味あるもん!」という強い口調で表現したのではないかなと思います。Hさんは、毎朝誰よりも早くツムピーに会いにいき、ツムピーとかかわっています。そんなHさんが感じていた意味とは何かと考えてしまいます。

園児に「自分の成長を伝えたい」と言ったHさんに、「成長ってどういうこと」と聞くと、「例えば、私なら、学校に行くのが楽しくなったり、それが成長」と答えたHさん。思えば、Hさんはツムピーとの出会いから、ツムピーを介しながら友だちとかかわり自分の居場所を見つけていきました。そんなHさんにとって、「学校に来るのが楽しくなった」のは本当に大きな成長なのだと感じます。

Hさんの綴った、「意味あるもん!」という言葉からこれまでのことを振り返ってみた時、わたしたちがツムピーを飼い始める前の話し合いで、「動物飼って意味あるの?」と言っていたNさんの言葉を思い出しました。わたしたち自身、「動物を飼うことの意味」をきっかけにツムピーとの暮らしを始めました。子どもたちは、それぞれにツムピーとこはくとの暮らしを通して、自分なりの「飼う意味」を感じているのではないかなと思います。ツムピーこはく祭りに向けて、Kさんは自分の成長を「僕はずっとうんち掃除ができなかったけど、ちょっとずつ挑戦してみたらだんだんできるようになって、今では毎日できます。幼稚園のみなさんも、僕みたいに飼っているうちにできるようになっていくと思います」と言葉にし、Mさんは、「私ははじめツムピーのことを触れなかったんだけど、ちょっとずつ慣れて触ってみたらすごくモフモフで温かいな嬉しいなって思いました」と言葉にし、伝える準備をしていました。それぞれの子どもの意味は一つではありません。Hさん、Kさん、Mさんと同じように、子どもたち一人一人に、わたしとツムピー・こはくとの時間があります。わたしなりの意味を考え直し、わたしなりの思いを綴り、言葉にし、園児たちに伝えることを通して、自分の成長を実感していけるのではないだろうか子どもたちの姿から感じています。